

ティーチングポートフォリオ

美術学部 美術表現学科

山口刀也

1 教育の責任（教育活動の範囲、何を担当しているか）

担当科目は基本的に教職課程に関わる科目である。以下、文部科学省「教育課程コアカリキュラム」を参考にしながら担当科目を列記する。

教育の基礎的理解に関する科目

- 教育原理 開講学年は大学1年生)
- 教育課程論 大2
- 教育制度論 大3
- 教育原理 短1
- 教育・保育制度論 短2

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目

- 道徳教育の指導法 大3

教育実習に関する科目

- 教育実習Ⅰ（事前・事後指導を含む） 大4、以下同
- 教育実習Ⅱ（事前・事後指導を含む）
- 栄養教育実習事前・事後指導

ほか

- 教職実践演習
- 教職実践演習（栄養教諭）

2 教育の理念（育てたい学生像、教育の目標）

学生には「学び上手」になってほしい。教職課程科目との関わりにおいていえば次世代の子どもたちの学びの意欲を励ます「学ばせ上手」な人に育ててほしい。以下、教育の目標を列記する。

- 科目毎に求められる知識を獲得する
- 科目やテーマ毎に存在する諸論点について、自分の考えを持ち、その考えを人に伝える力を身につけている。
- 自分の見方、考え方、経験を、他者のそれらとともに、学術成果や社会の状況と付き合わせながら深めようとしている。

3 教育の方法

全科目において、講義、対話活動、グループ活動、全体発表や全体討論など、複数の教授・

学習形態を組み合わせながら授業を行なっている。媒体についても、板書や紙資料、ICT など、そのテーマや活動にとっても最も適切と思われるものを選択している。大中小の課題を設定して毎回の授業で必ずフィードバックを行なうとともに、独自の学習シートを活用することで学生全員に対してコメントを行えるようにしている。学生が共同的に学習に取り組めるような仕組みをつくるため、学習シートや授業中に作成したレポート、指導案などを互いに批評しあったり、添削しあったり、コメントしあったりするような機会も設けている。

4 教育の成果

たとえば教育原理や教育制度論であればレポート、教育課程論や道德教育の指導法であればレポートと指導案などのように、科目の性質に即した成果物を作成している。全科目において、それらの成果物をまとめ学生に配布している。教育実習に関する科目や教職実践演習の成果に関しては、毎年度末に開催している教育実習・栄養教育実習報告会とその報告資料を参照してほしい。

5 教育の改善と今後の目標

これまでは全科目において教員が教材を自作して授業を行なっていた。ただし、来年度からは教科書を活用したり、反転学習法を用いたりすることで学習の質をさらに高めたい。今後も2で記した目標を追求する。